

議 長	副議長	事務局長	書 記
			



政務活動費実績報告書

令和 7 年 9 月 9 日

富谷市議会議長 金子 透 殿

会 派 名

代表者氏名

議 員 名

金子 透

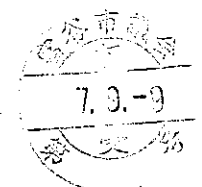


下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	☒ 調査研究費 ☐ 研修費 ☐ 広聴費 ☐ 要請・陳情活動
実 施 期 間	令和 7 年 7 月 6 日 (日) ～令和 7 年 7 月 8 日 (火)
実 施 場 所	1 北海道網走市役所 7 月 7 日 10:00～11:30 〒 093-8555 北海道網走市南 5 条 1 丁目 10 Tel 0152-44-6111 2 北海道根室市立花咲港小学校 7 月 8 日 9:30～11:00 〒 087-0032 北海道根室市花咲港 209 Tel 0153-25-8859
出席 (参加) 者名	金子 透
実施 (調査) 成果	※別紙のとおり
行 程	(計画と変更がある場合記載) ※別紙 変更なし

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



政務調査報告書

金子 透

【 日 時 】 令和7年7月7日（月） 10:00～11:30

【 調 査 内 容 】 北海道網走市
「農産物について」

【 対 応 者 】 網走市議会 議長 松浦 敏司 様
農林水産部 農林課長 古田 孝仁 様
議会事務局 次長 本橋 洋樹 様

【 所 感 】

網走市は、豊かな自然環境と広大な農地を背景に、畑作・酪農・畜産を基幹産業としながら、持続可能な農業の実現と地域経済の活性化を目指し、多角的な施策を展開している。特に、新規就農者や若手農業者への手厚い支援体制と、地元産農産物の高付加価値化・ブランド化への積極的な姿勢は、本市の農業・観光施策においても大変参考になるものであった。

新規就農者に対しては、農地取得や経営開始に伴う費用の一部を市が助成する「新規農業参入者支援事業」があり、最大5年間の経費助成が受けられる。さらに、国の「農業次世代人材投資資金」制度を活用し、年間150万円の給付を受けることができるなど、経済的な不安を軽減する支援が整っている。これにより、地域への定着を促進し、農業の担い手確保に貢献している。また、スマート農業技術の導入支援や、病害虫・鳥獣被害対策にも取り組み、農業の効率化と安全性の向上も図られている。

このほか、数戸の農家が大型農業機械などを共同所有し、共同作業を行う“営農集団の組織化”が進んでいることも大きな特徴といえる。これにより、単独では手が出せなかった中小農家が安価に最新大型機器を導入することが可能となり、作業の効率化と経営の安定化が図られている。中小農家が主流の本市においても参考になるものである。

一方、農産物のブランド化においては、市が策定した農業振興計画に基づき、オホーツクの気候や風土を生かした高品質な農産物の育成と、農商工連携による加工・販売の強化が進められている。特に「オホーツクあばしり和牛」は、ブランド肉として一定の認知を得ている上、令和4年度から5か年事業として始まった「あばしり和牛優良血統形成事業」にて更なるブランド化が図られている。但し、消費量の減少や生産者の高齢化などが課題となっているとのことである。こうした中、市では六次産業化の推進にも力を入れており、女性農業者や地域団体が中心となって加工品の開発や直販、体験型観光との連携が進められている。近年、インターネットでさまざまな情報が入手できる中、“体験型”の価値が高まりを見せているところであり、こうした取り組みは本市においても参考になるものである。

また、新たなブランド創出に向けて、サツマイモやもち麦などの試験栽培も行われており、地域特性や気候変動に応じた品目の選定と販路拡大が図られている。これらの取り組みを通じて、農業者の所得向上と地元経済の循環を目指す姿勢が随所に見受けられた。

今後の課題に関する質問に対しては、就農希望者のさらなる確保、ブランドの普及力向上、加工・販売のノウハウ不足といった点を挙げられた。特に女性や若手農業者への継続的なサポート、加工技術やマーケティングに関する人材育成は、取り組みの定着と発展において欠かせない要素である。行政、普及センター、JA、民間企業など多様な関係機関との連携強化が求められる。

総じて、網走市は農業者支援と農産物ブランド化の両面において、地域資源を最大限に活用し、将来を見据えた施策を積極的に展開している自治体であった。今回の視察を通じて得られた知見を活かし、本市の農業・観光振興に向け執行部と意見を交わしていく所存である。

政務調査報告書

金子 透

【 日 時 】 令和7年7月8日 (火) 9:30～11:00

【 調 査 内 容 】 北海道根室市 根室市立花咲港小学校
「インクルーシブ教育について」

【 対 応 者 】 根室市議会 議長 田塚 不二男 様
根室市教育委員会 教育長 波岸 克泰 様
根室市立花咲港小学校 校長 高田 真弓 様

【 所 感 】

根室市では、令和5年度から花咲港小学校を「インクルーシブ教育のモデル校」として位置づけ、ドイツ発祥の教育思想「イエナプラン」を活用した新たな学びのスタイルを導入している。この取り組みは単なる障がい児との共学を超え、家庭環境・発達ペース・人種の別や男女差・社会背景など、あらゆる多様性を尊重する教育へと発展している点が特筆である。

視察では、市教育委員会の波岸教育長や高田校長の案内のもと、実際の授業風景を拝見した。花咲港小は児童10名という小規模校で、前教育長の頃に統廃合の候補になったが、市独自のインクルーシブ推進校として存続。学校組織は校長1名、教頭1名、教員2名とコンパクトながら、イエナプランの理念に基づく細やかな対応が現場で実践されている。

イエナプランの中核概念は、暗記中心で一律に正解を求める「ジグソーパズル型」の教育ではなく、「レゴブロック型」の自律的思考・創造的学びを重視するところにある。子どもたちが自身で学びの計画を立て、自ら問いを見つけ出し、仲間と協働し、振り返るプロセスを通じて、主体的・対話的で深い学びを促す教育である。

具体的には、①学年を超えた混合学級編成、②児童自身が週単位の時間割を立てるマイプラン学習・みなとっこアワー、③魚をテーマに水族館企画を行う「Mプロジェクト」型の探究学習、④毎朝の「みなとく」サークル対話による心理的安全性の担保など、イエナプランの基本要素である自己決定・共同性・対話・創造性が学校生活に深く根付いていた。

根室市教育委員会はこの教育実践を、「障がいのみならず、人種の別や男女差、性についての指向性、学習の進め方やペースの違いなどを一人ひとりの個性・価値観として認め、自分らしくあるための選択や決定を尊重する教育」として位置づけ、道内でも先駆的な事例とする方針である。この取り組みは、教職員の価値観や指導スタイルの転換も伴うが、教員間での丁寧な議論と研修を通して現場への定着が進んでいるとのことであった。

現場からは、児童が習熟度や興味に応じて自分のペースで学ぶことで、学習に遅れる児童が生じにくく、同時に学年や習熟度に応じてリーダー的立場を担う子どもが現れるなど、互いに学び合う姿が見られているとのこと。また、波岸教育長より「子どもが学ぶペースを自分で決められれば、障がいの有無に関係なく深く学べる」との説明もあり、全ての児童が安心して共学できる環境が作られていることが確認された。

今後の課題についての質問に対しては、「特別支援を要する児童が混合学級でも適切に支援を受けられるか」「多様な児童に対する教員側の専門性・ICT活用力の向上」「卒業後、中学校への展開計画の可否」などを挙げられた。これらの解決に向け、根室市としては、北海道立特別支援教育センターとの連携強化や、教員 ICT 研修・AI 支援教材の活用など、教育情報化と支援体制整備を進めているとのことである。

総じて、イエナプランを土台に据えた根室市・花咲港小学校のインクルーシブ教育は、「誰一人取り残さない」教育実現に向けた具体的かつ先進的な取り組みであり、時代の要求に応える事例であった。小規模校ゆえの柔軟性を活かしつつ、今後の持続可能性には教員研修・地域との連携・制度的支援の強化が重要であり、全国にも広がり得るモデルと考察する。今回の視察で得た学びを糧に、本市の教育環境の更なる充実に向け、執行部とより建設的な意見交換をしていく所存である。